

第8回 芦田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会  
(広島県の減災対策協議会と合同開催)  
議事概要

日時：令和4年6月2日（木） 10：00～11：00

場所：WEB 会議

出席者：福山市長（代理 防災担当部長）

府中市長（代理 危機管理監）

広島県土木建築局長

気象庁広島地方気象台長

福山河川国道事務所長

八田原ダム管理所長

**【主な議事要旨】**

**議題1）今までの取組状況について**

（事務局）

（資料－1により、令和3年度の出水期の概要について説明）

（各機関）

（資料－2により、令和3年度の取組について説明）

（福山河川国道事務所）

○ 県、市町で行われている取組みにおいて 防災に関する教育の一つのツールとして情報提供する。

「自然災害伝承碑」は、過去にあった洪水、津波、土砂災害の発生に対して、先人の方が石碑などを残されたものであり、こういったものを国土地理院の地図情報に載せることで、行政側としては防災教育への活用、地域の方におかれては防災意識の向上に役立つと思っている。

現在、広島県東部地域では2箇所ほどしか登録されていないが、実際にはもっとたくさんあるかと思うので、市町において登録してはどうかと考えている。

**議題2）令和4年度以降の取組方針等**

（事務局）

（資料－3により、規約変更について説明）

（事務局）

（資料－4により、芦田川の減災に係る取組方針（修正）について説明）

**議題3）意見交換など**

（広島地方気象台）

（参考資料により、線状降水帯の予測について説明）

（事務局）

（参考資料により、洪水予報の運用変更、洪水の危険度情報の一体的発信について説明）

（八田原ダム）

（参考資料により、ダム放流の情報提供について説明）

(広島県)

○ 線状降水帯の予測について、今まで「中国地方では多いところで100mm～200mm」といった予報がされていたが、それには線状降水帯による降雨は考慮されておらず、今回、線状降水帯による予測が加えられることにより、予測雨量としては更に増えるという認識で良いか。

(広島地方气象台)

○ 気象情報として伝える内容としてはご認識のとおりである。雨量予測としては従来の枠組みで予測をしている。線状降水帯ができる・できないの予測精度は低いところではあるが、線状降水帯が発生すると更に雨量が増える可能性があるということとなる。

(福山市)

○ 洪水に関する危険度情報の一体的発信について、令和4年度中の運用開始とある。令和4年度のいつ頃を目標なのか教えて頂きたい。

(事務局)

○ 具体的な時期などがわかりましたら、改めて情報提供させていただきます。

「以下、余白」